

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/06/01

米FOMCがカギに

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	利食い売りに警戒 予想レンジ: 121.000 ~ 126.000 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	固有の材料に乏しく外部要因睨み 予想レンジ: 97.000 ~ 102.500 円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

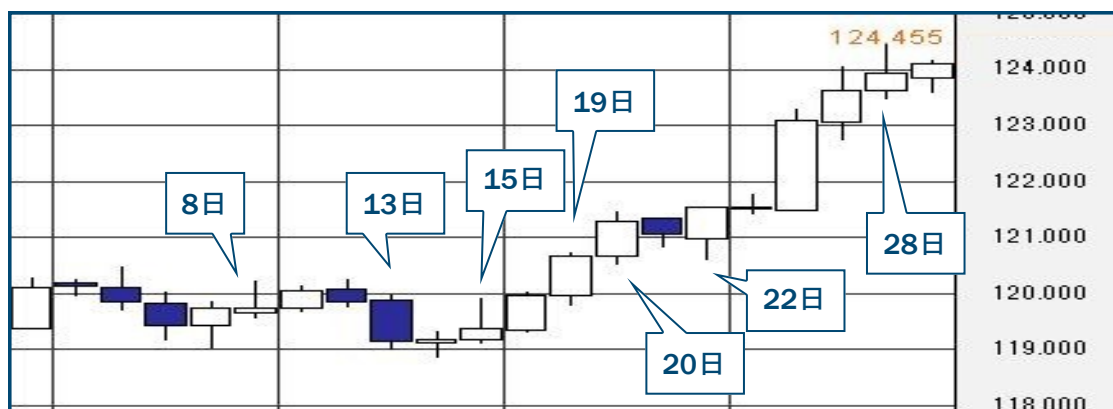
Copyright©2015Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 5月の推移

5月のドル/円相場は118.888～124.455円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.0%の大幅上昇(ドル高・円安)となった。

ドル/円は米4月雇用統計や米4月小売売上高の弱い結果などを受けて利上げ時期後退観測が広がる中、5月前半は頭の重い展開となった。ただし、119.00円前後では底堅さを保ち、後半に入ると徐々に米経済指標に強めの結果のものが目立ってくるとジリジリと上昇。26日に仕掛け的な円売り・ドル買いなどによってストップをからめて年初来高値を更新すると、上昇に拍車がかかり、28日には2002年12月以来の高値である124.455円を付けた。



四本値

OPEN	119.398
HIGH	124.455
LOW	118.888
CLOSE	124.120

8日	米4月雇用統計は、非農業部門雇用者数が22.3万人増と予想(22.8万人増)をわずかに下回り、前回分が下方修正(12.6万人増→8.5万人増)された。平均時給が前月比+0.1%と予想(+0.2%)を下回る伸びに留まった事も重石となり、ドル/円は119.580円まで下落。ただ、失業率は5.4%と2008年5月以来の低水準を記録した事や、労働参加率は62.8%と前月(62.7%)を上回った事から、売り一巡後は120.202円まで反発するなど神経質な展開となった。
13日	米4月小売売上高が前月比±0.0%(市場予想:+0.2%)、自動車を除いた数値は+0.1%(同:+0.5%)と予想よりも弱い結果だった事を受けてドル売りが強まった。また、10年債入札が堅調で米長期金利が低下した事も重石となった。
15日	日銀関係者の話として「日銀は追加緩和において付利金利引き下げを含むあらゆる手段を排除しない」と一部で報じられるとドル/円は上昇。ただし、米5月ニューヨーク連銀製造業景気指数が3.09(予想:5.00)、米4月鉱工業生産が前月比-0.3%(同:±0.0%)、米5月シガン大消費者信頼感指数・速報値が88.6(同:95.9)といずれも予想より弱い結果になった事から、上げ幅を消した。
19日	米4住宅着工件数が113.5万件と市場予想(101.5万件)を大幅に上回り、2007年11月以来の高水準となった。また、同時発表の米4月建設許可件数も114.3万件と市場予想(106.4万件)を大きく上回った。これらを受けてドル高が進行した。
20日	ロンドンフィクシングに向けたドル買いで上昇。その後発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録において「多くの参加者が6月利上げの可能性は低いと判断」とあった事などを受けて一時軟化する場面も見られたが、「大半の参加者が、米経済は第1四半期の減速の後に緩やかに拡大し、労働市場も改善すると予想」「数人のメンバーは、6月利上げに向けて経済情勢の準備は整うと認識」「ほとんどの参加者が当面は会合ごとに利上げ判断をするとの姿勢を維持すべき」とあった事で6月利上げの可能性が残ったため、すぐに切り返した。
22日	米4月消費者物価指数は前年比-0.2%と事前予想通りだったものの、コア指数が前年比+1.8%と事前予想(+1.7%)を上回ると、ドル高が進行。さらに米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長が「年内いずれかの時期に利上げを行う事が適切」「利上げ後は段階的なペースで引き締めを行う可能性」「第1四半期後に景気は強くなると予想」などと述べるとさらに上値を伸ばした。
28日	アジア市場中に仕掛け的な円売り・ドル買いが入ると、ドル/円はストップを絡めて124.291円まで上昇。一旦利食い売りが強まったが、米4月中古住宅販売成約が前月比+3.4%と市場予想(+0.9%)を大きく上回り、全般的にドル高が進むと、ドル/円は2002年12月以来高値の124.455円を付けた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.5749%
HIGH	0.6603%
LOW	0.5282%
CLOSE	0.6053%

米10年債利回

OPEN	2.0459%
HIGH	2.3639%
LOW	2.0441%
CLOSE	2.1214%

日経平均

OPEN	19510.85
HIGH	20655.33
LOW	19257.85
CLOSE	20563.15

NYダウ平均

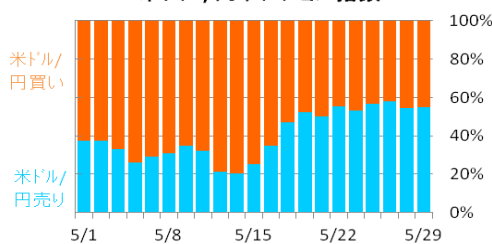
OPEN	17859.27
HIGH	18351.36
LOW	17733.12
CLOSE	18010.68

5月のポジション動向

6月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

米ドル/円ポジション指数



- ・米5月雇用統計(5日)
- ・日4月経常収支(8日)
- ・日1-3月期GDP・二次速報(8日)
- ・米5月小売売上高(11日)
- ・日5月通関ベース貿易収支(17日)
- ・米FOMC(16~17日)
- ・米5月消費者物価指数(18日)
- ・日銀金融政策決定会合(18-19日)
- ・日銀会合議事要旨(24日)
- ・米1-3月期GDP・確報値(24日)
- ・日5月全国消費者物価指数(26日)
- ・米利上げ時期に関する要人発言

6月の見通し

ドル/円相場を取り巻く環境を確認すると、日銀に関しては現在のところ、物価の見通しに変化が見られない限り追加の金融緩和を行わないとする姿勢を崩しておらず、ドル/円の方向感の頼みの綱は米国の材料になる。

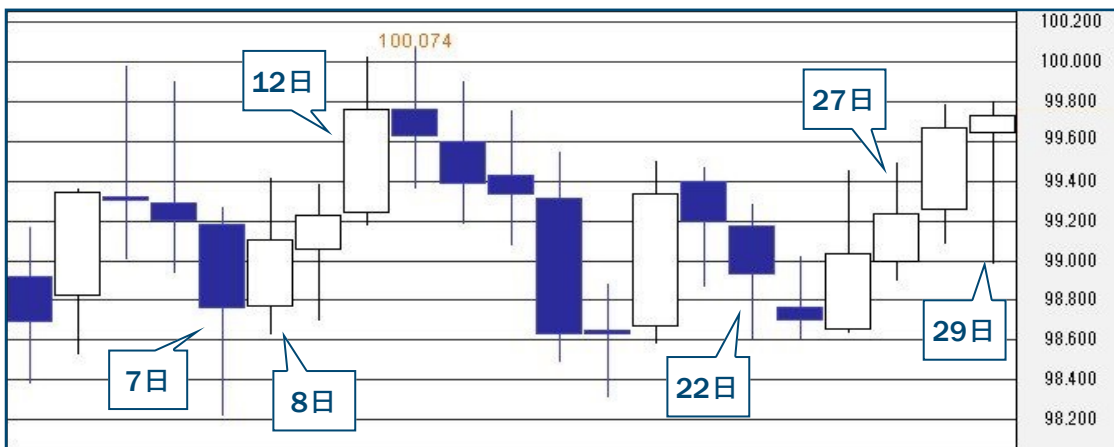
米国については、あくまで軸は「利上げの時期はいつになるか」である。その観点から、5月雇用統計や5月小売売上高などの重要指標や、FOMCが特に注目される。今月のFOMCでの利上げの可能性について、FOMCのスタンスとしては完全に否定できないとしながらも、「多くのメンバーが可能性は低いと判断」としており、市場では金利据え置きと見方が大勢を占めている。焦点は、声明文と経済・金利見通しの内容、イエレンFRB議長の会見内容だ。これらの内容から総合的に判断して、9月利上げの可能性や、年内2度の利上げがあるかどうかなどを窺っていく流れになりそうだ。2015年末時点のFF金利見通しの上方修正などがあれば、ドルが一段と買われるきっかけとなろう。ドル高に拍車がかかれば、節目の125,000円や2002年12月高値125,690円を視野に上値を伸ばしていく事になりそうだ。

ただし、これらFOMC関連イベントの内容に目新しいものが見られない場合、市場は再び「数カ月先の利上げ」を睨みつつ、数々の経済指標を1つ1つ確認しなくてはならない状態に後戻りする形となる。5月下旬からの上昇によって12年半ぶりの高値水準まで押し上げられてしまっている状況を考慮すると、弱めの経済指標が重なれば「利食いの好機」と看做され、ドル/円が調整安となる事も考えられよう。(石川)

(予想レンジ: 121,000~126,000円)

カナダ/円 5月の推移

5月のカナダ/円相場は98.227~100.074円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.8%の小幅な上昇(カナダドル高・円安)となった。一時、約4カ月ぶりに100円台を回復する場面もあったが、米ドル/カナダドル相場でのカナダドル安とドル/円相場での円安に挟まれて方向感を見出せずにもみ合った。NY原油先物が60ドルを挟んでもみ合いを続けた事や、カナダ中銀(BOC)が金融政策の方向性を明確に示さなかった事などからカナダドルの方向性が定まりにくかった。



四本値	
OPEN	98.923
HIGH	100.074
LOW	98.227
CLOSE	99.734

7日	前日に一時62ドル台まで上昇していたNY原油先物が58ドル台へ急落するとカナダドル売りが強まり98.227円まで下落した。しかし、その後は米新規失業保険申請件数の好結果などを受けてドル/円が119円台後半まで上昇した動きに連れて98.90円前後まで値を戻した。
8日	加4月雇用統計で雇用者数ネット変化が前月比で1.97万人減少(予想0.50万人減)したものの、失業率が6.8%と予想(6.9%)よりも強かった事から99.413円まで上昇したが、同時刻に発表された米4月雇用統計を受けてドル/円が下落すると、連れて98.635円まで反落した。しかし、弱い米雇用統計を受けて利上げ先送り期待が高まり、NYダウ平均が大幅に上昇すると再び99円台に浮上した。
12日	米長期金利の低下がドル安を誘った一方、NY原油先物が61ドル台に上昇したためカナダドル買いが活発化。カナダ/円は、米ドル/カナダドルが下落した影響を強く受けて約4カ月ぶりに一時100円台を回復した。
22日	加4月消費者物価指数が前月比-0.1%、前年比+0.8%と予想(+0.1%、+1.0%)を下回った事からカナダドル安が進行。米4月消費者物価コア指数が予想を上回った事からドル高が進み、米ドル/カナダドルでカナダドル安に振れた影響を受けてカナダ/円も98.60円台まで下落した。
27日	カナダ中銀(BOC)は、予想通りに政策金利を0.75%に据え置くと発表した。声明で「コア・インフレは過去のカナダドル安や特定部門の要因で2%を上回り続けている」として、ややインフレ警戒感をにじませた事からカナダドルが一時上昇する場面も見られたが、続けて「一時的な要因を除けば、経済のスラックと整合的な形で、基調的なインフレは1.6~1.8%程度で推移する見込み」との見解を示したため上げ幅を縮小した。
29日	加3月国内総生産(GDP)が前月比-0.2%と予想(+0.2%)を下回り、1-3月期GDPが前期比年率-0.6%と予想外のマイナス成長となった(予想:+0.3%)事からカナダドル売りが強まり、一時99円を割り込んだ。しかし、在庫の減少を手掛かりに原油価格が上昇する中で反発すると99.80円台まで切り返した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

加10年債利回り

OPEN	1.618%
HIGH	1.914%
LOW	1.601%
CLOSE	1.624%

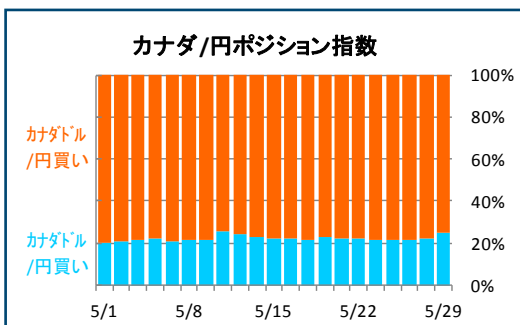
N Y 原油

OPEN	59.79
HIGH	62.58
LOW	56.51
CLOSE	60.30

NYダウ平均

OPEN	17859.27
HIGH	18351.36
LOW	17733.12
CLOSE	18010.68

5月のポジション動向



6月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・4月加国際商品貿易収支(3日)
- ・OPEC総会(5日)
- ・5月加雇用統計(5日)
- ・5月加住宅着工件数(8日)
- ・1-3月期日本GDP・二次速報(8日)
- ・5月日本通関ベース貿易収支(17日)
- ・日銀金融政策決定会合(18-19日)
- ・5月加消費者物価指数(19日)
- ・5月加小売売上高(19日)
- ・5月日本消費者物価指数(26日)
- ・4月加GDP(30日)
- ・原油相場など国際商品価格
- ・主要国株価

6月の見通し

6月はカナダ中銀の金融政策決定会合の予定もなく、引き続きカナダドル固有の材料は乏しい見通しだ。原油価格の動向や主要国の株価動向(リスク許容度の観点から)などの「外部要因」がカナダ/円相場のカギを握る事になるだろう。逆に言えば、原油価格や主要国株価がよほど大きく一方向に振れない限り、カナダ/円も方向感を伴った展開にはなりにくいともそうだ。

まずは、5日に行われる石油輸出国機構(OPEC)総会が注目される。OPECは価格よりも市場シェア確保を優先する戦略を維持する模様であり、日量3000万バレルの生産枠を据え置く公算が大きいと見られている。こうした決定は、原油価格の下落圧力となりやすく、カナダドルの重石になる可能性があるだろう。主要国株価については、米国の利上げ(観測)に対する反応が焦点だ。利上げ期待=景気回復期待というポジティブな反応なら株価とともにカナダ/円の上昇に繋がりがやすい一方、利上げ観測が株価の調整に繋がるようだと下押し要因にもなり得る。特に米国株の動向は重要だろう。また、5月後半には一時大きく下落するなど波乱含みの展開が見られた中国株の動向にも注意しておきたい。(神田)

(予想レンジ: 97.000~102.500円)